

《関東短期大学の将来計画の策定（自由記述）》の記述について

この「将来計画の策定」は自由記述です。したがって、必ずしも記述する必要はありません。しかし短期大学の現在を理解するためには、将来どのような方向に向かおうとしているのかを知ることも重要です。その意味で、短期大学の将来計画（中期・長期計画）がありましたら、差し支えない範囲で記述して下さい。

1 これまでの改組転換の経緯

昭和 21 年、館林キャンパスの地に現在の関東短期大学の前身である関東女子専門学校（国文科、被服科）が設置された。英文科増設の後、学制改革により関東短期大学と改称された。平成元年当時は、国文科、英文科、商経科、初等教育科を擁し、それまで既存の各科の 2 部(夜間部)はすべて廃止され、全学科が昼間部となった。

その後、時代の進展、進学人口の変化に伴い、平成 14 年以降も改組転換が以下のとおり行われた。

平成 14 年 初等教育科幼稚園・保育コース開設

平成 15 年 国文科を日本語文化学科に、英文科を英語文化学科に、商経科を経済経営情報学科に改称

平成 16 年 初等教育科をこども学科に改称

平成 17 年 英語文化学科を廃止

平成 18 年 日本語文化学科、経済経営情報学科を廃止

2 将来計画の現状

(1) 現在に至る状況

平成 18 年度以降はこども学科（入学定員 250 名、うち小幼コース 50 名、幼保コース 200 名）の単科のみの短期大学となった。過去 6 ヶ年間の入学者数の推移は次のとおりである。

[平成 16 年度から平成 22 年度の入学者数の推移]

年 度	入 学 者 数		
	小幼コース (入学定員 50 名)	幼保コース (入学定員 200 名、 平成 21 年度から 150 名)	合 計 (入学定員 250 名、 平成 21 年度から 150 名)
16 年度	44 名	199 名	243 名
17 年度	40 名	255 名	295 名
18 年度	65 名	198 名	263 名
19 年度	22 名	133 名	155 名
20 年度	13 名	95 名	108 名
21 年度		81 名	81 名
22 年度		86 名	86 名

上表のとおり、平成 18 年度までは、ほぼ順調に入学定員を満たしていたが、平成 19 年度夏ごろには入学定員を満たせない予想が明らかとなり、今後の打開策の検討を迫られた。

第 1 に「小学校教諭の教育課程・教職課程」（小幼コース）については、平成 20 年 2 月の理事会において、その募集状況が、急激に低落し回復の見込みも期待できないこと、特に平成 19 年度入学者数についても大幅な減少が見込まれるに至ったこと、今後、教育課程・教職課程の設置は 4 年制大学化、大学院化していく趨勢にあり、短期大学の同課程への進学者は殆ど見込めない状況にある旨の認識で一致した。

平成 21 年度の小幼コースの募集広報においても、先行措置を必要とする進学雑誌等については掲載せず（平成 19 年 11 月、同年 12 月）、同コース用パンフレットの作成をしないこと（平成 20 年 1 月）について、理事会と調整の上、措置された。

その後、教授会において、本学における「小学校教諭の教育課程・教職課程」の存続について審議し、今後の募集の見込み、時代の趨勢、および平成 19 年 9 月の学校法人運営調査の結果、今後、文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団から経営改善計画の作成と実行とを強く求められている状況に鑑み、初等教育の実績と伝統が消え去ることは誠に残念であるが、その歴史的使命は終わりつつあり、平成 21 年度以降の「小学校教諭の教育課程・教職課程」の募集の停止については、結論として理事会での審議、決定に委ねることになった。

なお、教授会において短期大学の存続、規模の適正化・縮小とともに、新たな地域の多様なニーズに柔軟に応じうる新学科の増設を検討、申請し、速やかに収支のバランスを取り、持続可能な短期大学を目指す必要があること、あわせて今後の短期大学のあり方について、引き続き検討していきたい旨の要望があった。

平成 20 年 3 月の理事会において、次の 3 点が決定された。

- ・平成 20 年 12 月末までに入学定員を 250 名から 50 名（小幼コース相当分）を削減し 200 名とする。
- ・平成 21 年 3 月までに小学校教諭の教育・教職課程の認可を取り下げる。
- ・平成 21 年度の入学定員を幼保コースのみの 200 名とする。

第 2 に、こども学科の幼保コースについても、前述の激減傾向が見られることから、今後の短期大学のあり方について、平成 19 年 8 月、特命により教職員 6 名が指名され、検討に当たった。

これらのメンバーは、高校生、大学生のニーズや動向を把握するため、次の諸項目の調査に当たった。

- ・附属高校、大学、短大、太田市立商業高校の学生、生徒に対するアンケートの分析
- ・専門学校の学科傾向
- ・人気資格
- ・IT 関係（富士通館林システムセンター訪問）
- ・有料の公開講座、エクステンションセンター
- ・健闘している短大の現地調査（新潟青陵短期大学部、埼玉女子短期大学）
- ・地域総合科学科構想

- ・附属高等学校生徒に対する進路希望調査の実施

以上の調査及び検討作業を経て、平成 20 年 1 月ごろ、新学科の内容としておおむね次の分野のニーズに柔軟に応じ得る学科構成のイメージを得た。

- ・基礎的分野

フレッシュマンセミナー等、英語コミュニケーション、コンピュータ、基礎体育、社会生活とマナー、キャリアプランニング

- ・ファッション・美容

ファッション文化、ファッションビジネス、ファッションコーディネート、ビューティ・キャリア

- ・フード

フードコーディネート、クッキング、フードマテリアル

- ・ライフプランニング

ライフコア、インテリア、ブライダル

- ・ビジネス実務

ビジネス実務基礎、医療事務、会計事務

- ・情報処理

オフィス・エキスパート、システムアドミニストレーター、エンドユーザー

- ・国際英語

英語基礎、一般英語、英語演習、検定英語

- ・国際理解・コミュニケーション

国際理解、社会コミュニケーション、対人コミュニケーション、貿易・観光サービス

- ・福祉

社会福祉、介護技術、訪問介護、レクリエーション

- ・スポーツ・健康

平成 20 年 2 月ごろには、こども学科（入学定員 100 名）、上記のイメージの中から抽出したコア分野を並列する新学科（定員 100 名程度）とする構想案を検討中であった。

相前後して、本学園が次項で述べる文部科学省及び私学事業団（経営支援室）との相談を受けつつ経営改善を図る方針が理事会で採択され、当面は、収支の改善を図ることに全力を傾注し、改組転換は控えるほうが良いとの趣旨の私学事業団経営支援室の勧告により、短期大学の新学科の検討作業を停止した。

（2）平成 20 年 3 月にいたるまでの間の経営改善計画の経緯

平成19年9月11日、文部科学省学校法人運営調査委員による本学園への実地調査が行われた結果、平成20年1月18日付文書で、文部科学省から調査結果の通知を受けた。

平成20年2月5日、文部科学省高等教育局私学参事官付学校法人経営指導室にて、「5ヵ年の経営改善計画書作成及び平成20年度5月末提出」の指示を受けた。

引き続き、平成20年3月7日、私学事業団（経営支援室）2名の来訪及び相談を受けた。上

記に基づき、平成20年5月、文部科学省へ「経営改善計画」を提出した。

(3) 平成21年3月にいたる入学定員の引き下げに至る状況

平成20年9月ごろ、平成22年度入学者数の伸び悩みの見込みが明らかになり、また本学所在地域におけるニーズの需給関係の見込みから、理事会、事務局、短期大学執行部の間で入学定員の変更（削減）について調整が図られ、次の2点が確認された。

- ・さらに幼保コースの入学定員を200名から150名に、50名を削減する。
- ・県庁経由関東信越厚生局と入学定員変更（削減）について調整する。

県庁との調整を経て、平成20年12月10日教授会の議を経て、同年12月16日理事会において次の二点が決定され、それぞれ関係先へ提出した。

- ・文部科学省に対して小学校教職課程の認可取り下げを提出
- ・文部科学省・県庁経由関東信越厚生局に対し、入学定員150名への定員変更を提出

平成21年3月に、定員変更、小学校教職課程認可の取り下げについて関係省による承認を得た。

(4) 将来計画検討の状況

平成21年12月、定員割れの状態に鑑み、短期大学将来構想検討会が設置され、既存のことも学科の入学定員確保のための施策、平成23年度申請に向け、改組転換、定員について検討することとなった。

平成22年2月、理事会において、喫緊の課題として短期大学の23年度募集については、平成23年度の経営改善の見通しを得て、平成22年3月下旬までに決定することとされた。

これを受けて同検討会は、① 近隣高等学校2年次生徒アンケート（5高等学校の2年次生徒延べ965名）、② 短期大学学生及び附属高等学校生徒へのヒアリング、③ 現地調査（奈良佐保短期大学、愛媛女子短期大学、香蘭女子短期大学）によりニーズ調査を緊急に行った。これらの調査結果を踏まえて、地域の高校生の進学ニーズを考慮し、また、平成23年度募集のため、認可を必要とする改組転換に着手できないが、こども学の広義の範囲内で実施可能な施策について、教授会の議を経て理事会で審議されて、次の構想により平成23年度募集に当たることが決定された。現在、その構想により募集広報活動を実施中である。

構想：

- ① 幼稚園教諭免許・保育士資格の取得に必要な学びを中核、基盤とする。
- ② これに加え、「好きなこと、興味・関心がある、得意分野」で自由に選択して学べる分野として、5つのフィールド、「音楽・表現」、「心理」、「スポーツ」、「栄養・食物」、「ビジネス」に新科目群を設置して、知識や技能をさらに伸ばし、「自信」、「チカラ」を追加する。
これらの科目の履修については、履修上の関連規程等を見直し、履修しやすい環境の設定に努める。
- ③ 上記の基本構想に基づき、平成23年度募集活動を行う。

[フィールドの概要・科目例など]

フィールド名	概要	科目例	目指せる資格
音楽・表現	音楽や身体表現を通して豊かな感性を養い、日々の生活を充実させる	アンサンブル リトミック(リズム遊び) アドバンスト・ピアノ	リトミック指導者
心理	こころのしくみを知り、自己や他者を理解して望ましい人間関係を形成する。	乳幼児心理学 心の分析 カウンセリング演習	ピアヘルパー
スポーツ	スポーツを通して健康を増進し、達成感を味わいながら協調性を高める。	幼児体育 シーズンスポーツ レクリエーション・キャンプ	レクリエーション・インストラクター 幼児体育指導者
栄養・食物	心身の健康の基本となる食生活を考えながら、子どもの育ちを支援する。	小児栄養 食育論 キッズクッキング	食育インストラクター
ビジネス	子ども関連の職業を視野に置いた、ビジネス・社会人としての基礎的な能力を伸ばす。	コンピュータ こどもビジネス カラーコーディネート ビジネスマナー 日本語表現	秘書検定 販売士 色彩検定
その他の資格			社会福祉主事任用資格 児童厚生2級指導員 おもちゃインストラクター ベビーシッター

(5) 将来構想についての今後の検討の焦点

改組転換など将来構想についての今後の検討の焦点は、次の項目に対する判断と決定となる。

目標：収支のバランスが取れた持続可能な短期大学の学科構成を目指す。

結論を得たい時期：平成22年11月末ごろまでに

主要検討項目：

- ① 地域の多様なニーズ(学生の学びのニーズと地域の人材求人ニーズ)に見合った学問分野を擁する学科構成の内容について
- ② 地域における進学人口の動態およびその予想と入学者獲得数予測について
- ③ 収支のバランスの見込みと持続可能性について
- ④ 持続可能性についての総合判断